

流行語から見る韓国の若者の現状

——2014年以降を中心に——

李エステル

(塩原研究会 4年)

- I はじめに
 - 1 研究の目的
 - 2 先行研究の整理・本論文の位置付け
 - 3 本論文の構成と研究方法
- II 2014～2016年の流行語
 - 1 헬조선 (ヘル朝鮮)
 - 2 탈조선 (脱朝鮮)
 - 3 수저 계급론 (スプーン階級論)
 - 4 노오력 (ノオリョク)
 - 5 n 포세대 (n 放世代)
 - 6 考 察
- III 2017年以降の流行語
 - 1 복세편살 (複世楽生)
 - 2 율로족 (YOLO 族)
 - 3 소확행 (小確幸)
 - 4 혼족 (一人族)
 - 5 考 察
- IV 인터뷰調査
 - 1 인터뷰の方法
 - 2 인터뷰の結果
 - 3 考 察
- V おわりに

I はじめに

1 研究の目的

小矢野によれば、「新たな物事の出現から登場する新しい言葉を『新語』、新語の中でも当時代の流行によって生まれる言葉を『流行語』と言い、流行・流行語には終わりがある」(小矢野、2002)。すなわち、各国の流行語を見ることで、当時の流行や社会現象を把握することが可能である。筆者の母国である韓国でも、流行語を通じて社会の現状がしばしば表現されてきた。2014年頃から、その動きは顕著になった。急激な就職難や経済格差の拡大を経験している20~30代の若者たちが、その苦労や社会に対する不満を、流行語を通じて表そうとしたのである。流行語はその後しばらく、若者が韓国の社会問題に対する怒りを表明する手段として使われた。しかし、2017年から登場した流行語は目立って雰囲気が変わり、社会への怒りから個人々人への慰めを示すものになった。つまり、わずか2~3年で流行語の傾向が大きく変わったのである。なぜこのような変化が起こったのか。この変化は、若者にとってどのような意味を持つのか。本論文は2014~2016年の流行語と2017年以降の流行語に分類して各時期を代表する流行語を検討する。それによって、こうした変化の理由を把握し、韓国社会の現状、そして韓国の若者の現状に対する理解を深めることを目標とする。

2 先行研究の整理・本論文の位置付け

2014年から登場したいくつかの流行語は韓国で社会現象にもなり、研究がなされてきた。特に後述する「スプーン階級論」という流行語に関しては、活発に研究が行われている(김세직, 류근관, 손석준 (Kim, Ryu & Son) 2015)。しかし、特定の流行語だけではなく、近年の複数の流行語をまとめて考察する研究は少ない。そこで本論文では、韓国社会の流行語の全体的な流れを描き出すことで、その理解を促す。

3 本論文の構成と研究方法

まず第Ⅱ・Ⅲ章では、韓国社会で2014~2016年に登場した流行語と2017年以降に登場した流行語に分けて説明する。なお、韓国では、日本の「新語・流行語大賞」のような、主要なメディアが定期的実施するイベントが存在しない。その

ため各章で紹介する流行語に関しては、就職・アルバイト求人ウェブサイトなどが実施した年度別の流行語アンケートをもとに、各年の上位に位置した流行語のなかから、その時期の韓国の社会状況を説明するのに適切だと判断した単語を選定した。

第IV章では、第II・III章で紹介した流行語とその変化を実際経験してきた韓国人の若者にインタビューし、各時期の流行語と、その変化が若者に対してどのような意味を持つかを考察する。第V章では2014年から現在までの流行語の変化の流れとインタビュー調査の分析を総括し、こうした変化の理由と韓国社会の今後を考察する。

II 2014～2016年の流行語

本章では2014年および2015年に流行した「ヘル朝鮮」を皮切りに続々と登場した、韓国の社会問題に関する流行語を考察する。

1 헬조선 (ヘル朝鮮)

「헬조선 (ヘル朝鮮)」は、2014年12月に登場した、地獄という意味の英単語「ヘル (Hell)」と「조선 朝鮮 (Chosun)」を合成した造語である(국립국어원 (National Institute of Korean Language) 2015)。当初は19世紀末の世間の混乱を表した言葉だったが、徐々に現代韓国の状況を表象する言葉となった。「헬조선 (ヘル朝鮮)」は、2015年、韓国の主要なアルバイト求人サイトであるアルバ・天国 (알바천국 : Alba Heaven) が19～30歳の若者989人を対象に行った「若者層が選んだ今年の流行語」の調査で29.9%を獲得し2位を占めた(알바천국 (Alba Heaven) 2015)。「ヘル朝鮮」を生き残った若者たちの体験談を描いた書籍である『헬조선 인 앤 아웃 (Hell-Chosun In&Out)』の著者の1人である이민영 (Lee Min Young) は、この言葉に込められた若者の不満は大きく三つあるという。第一に、人を「スペック」¹⁾だけで判断する社会のあり方、第二に就職難、第三に、就職に成功しても、過労の中で働かされる文化である(이민영 (Lee) et al., 2017)」。この三つを経験しながら、若者が韓国をヘル朝鮮と認識する過程を以下で考察する。

(1) 人をスペックだけで判断する社会

韓国でも、就職活動の際は書類上に記載されるスペックが重要となる。他国で

もそれは同じだと思われるが、韓国の若者がスペック重視の傾向に過敏に反応する理由は、子供の頃からそうした社会のあり方に気づかされ、しかもスペックの獲得が容易でないと感じているからではないかと考えられる。ここで言うスペックは家柄、受賞歴、海外経験、就職先など多様であるが、本論文では、韓国の若者が子供の頃から獲得するように強いられ、最も重要視される、大学の学歴に絞って考察する。

韓国の教育統計サービス (Korean Education Statistics Service) の調査によると、1990年に33.2%であった大学進学率は、25年後の2005年には82.1%に至り (교육통계서비스 (Korean Education Statistics Service) 2019)、現在の韓国の大学進学率はOECD諸国の中で1位である (OECD 2019)。韓国の子供たちは、いわゆる「良い大学」である「イン・ソウル大学」²⁾ に入るため、小学校1年生の時からスヌン³⁾ に備えて勉強に励む。高校生になれば、毎日「0限」⁴⁾ に間に合うよう、朝6～7時に学校に行き勉強を始め、放課後には、夜遅くまで塾で講義を受け、帰ってきたら、夜明けまでまた自習を行う。高校3年生で現役で志望大学に合格できれば良いが、現役で志望する大学に合格できなかった大多数の人たちは、いつ終わるかわからない浪人生活を始めなければならない。「随時」と呼ばれる、スヌン成績以外の評価⁵⁾ で行われる入試を除けば、大学別の試験もなく、スヌンの成績だけで大学が決まるため、12年以上注いできた努力が、スヌンの1日で決まることになる。

このように、出身大学という書類上の一つの単語に過ぎないスペックのために、長い準備期間に経験する大きな負担、そしてその重要なスペックがたった1日で決まり、失敗すればやってくる敗北感が、若者にとって韓国社会をヘル朝鮮と認識させる大きな要因であると考えられる。

(2) 就職難

子供の頃から、良い大学という最高のスペックを持つことだけで今後の人生が上手くいくと信じてきた若者にふりかかるのは、就職難という現実である。雇用労働部 (Ministry of Employment and Labor) の調査によると、2019年の韓国での求人数は135万1,945に過ぎないが、求職数は278万7,425にのぼる。求人倍率は0.49である (고용노동부 (Ministry of Employment and Labor) 2019)。このような韓国の就職難は、働き口が絶対的に少ないこともあるが、「良い企業」が相対的に少ないことも一因である。ここでいう「良い企業」とは、ある程度の賃金と福祉が保

証されている大企業・中堅企業・公企業を指す。2019年に産業通商資源部 (Ministry of Trade, Industry and Energy) が行った「産業技術人力実態調査」によると、中小企業の求人難は、大手企業の7.8倍だった (산업통상자원부 (Ministry of Trade, Industry and Energy) 2019)。しかし、中小企業就職に関する大学生たちの信念、態度および就職意思に関する研究によれば、2017年、就職活動をしていた学生466人中180人が中小企業では就職する意思はなく、その一番の理由は「給料が少ない」ことだった (문선정 (Moon) 2017)。実際、雇用労働部 (Ministry of Employment and Labor) が発表した「2017年9月事業体労働力調査」によると、大手企業と中小企業間の平均賃金格差は、2016年の176万6,000ウォンから2017年の178万5,000ウォンに拡大した (고용노동부 (Ministry of Employment and Labor) 2017)。若者たちは一生懸命勉強して良い大学に入ったのだから「良い企業」に就職したいが、そのような企業は相対的に少ない。妥協して中小企業に入れば、最初に入社する企業によって次に転職する企業、ひいてはこれからの人生が決まるため、就職浪人してでも1年間休学して、よりスペックを積んでから「良い企業」への就職を狙うのが一般的である。しかし、それでもなかなか「良い企業」には入れないため、公務員試験に目を向ける若者も多い。

このように、良いスペックさえあれば「良い企業」に就職できると信じてきた若者が直面するのは、今まで積んできた努力が報われない現実である。この虚しさが、若者が現代韓国を「ヘル朝鮮」と呼ぶもう一つの原因だと考えられる。

(3) 就職後の生活

韓国の若者が韓国を「ヘル」と表現する三つ目の理由は、念願の就職を果たした後も続く、苦しい生活である。若者たちは、妥協をしてでも、いずれは就職して夢見てきた社会人生活を始める。しかし、たいていは想像通りの幸せな生活にはならない。韓国の主要な求人・求職サイトであるジョブ・코리아 (잡코리아: Job Korea) が2020年、ミレニアル世代⁶⁾の社会人507人を対象に行った調査では、良い職場の条件の1位は、ワークライフバランスを保証してくれる職場であり、49.9%を占めた (잡코리아 (JobKorea) 2020)。しかし、同じサイトが2018年に会社員937人に行った調査では、3人中1人が自社のワークライフバランスは悪い方だとした (잡코리아 (JobKorea) 2018)。また韓国の主要な新聞社である中央日報 (중앙일보: JoongAngilbo) と社会人向けの匿名掲示板アプリケーションであるブラインド (블라인드: Blind) が2019年に共同で行った韓国の社会人の幸福指数

表1 海外就職統計情報

年度	就職者数
2013	1607
2014	1679
2015	2903
2016	4811
2017	5118
2018	5783
2019	6816

出典：한국산업인력공단 (Human Resources Development Service of Korea) 「海外就職統計情報」より作成

調査によると、人生の満足度は43.5点、職場の満足度は42.7点と両方とも半分以下であった。そして就職1～2年目の人では、双方とも就職1年未満の人に比べて下がっている (중앙일보·블라인드 (Joongangilbo·Blind) 2019)。このように、若者は職場においてワークライフバランスを最も重要視するのに対して、実際の職場のワークライフバランスは良いと言えず、就職した当初は特に、人生と職場に対する満足度が下がる傾向がある。良い大学に入って、良い就職先に就くことで目標を達成し、幸せな人生が待っていると考えてきた若者が直面する現実が想像とは異なることが、若者による社会への不満の原因だとも考えられる。

2 탈조선 (脱朝鮮)

ヘル朝鮮と共に登場し、セットのように使われるのが「脱朝鮮」である。「脱朝鮮」には、地獄のような韓国から脱出して他国に移住するという意味がある。「ヘル朝鮮」だとされる理由に就職難が大きく関係していることから、韓国国内ではなく海外での就職、すなわち「脱朝鮮」を試みる人々が増えているのである。韓国産業人力公団 (Human Resources Development Service of Korea) の2020年の調査によると、韓国の海外就職者数は近年増加している (表1)。

2020年度の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外就職者数は大きく減少すると予想されるが、これは例外的な事態であり、厳しい韓国の現状から海外移住を希望する若者は今後も増えると予想される。しかし、果たして海外移住で全ての問題が解決されるのかという懸念が、脱朝鮮には必ず付きまとう。

表2 「スプーン階級」基準表

(単位：ウォン)

ダイヤモンドスプーン	資産30億以上 or 年収入 3 億以上	上位 0.1%
金スプーン	資産20億以上 or 年収入 2 億以上	上位 1%
銀スプーン	資産10億以上 or 年収入8000万以上	上位 3%
銅スプーン	資産 5 億以上 or 年収入5500万以上	上位 7.5%
泥スプーン	資産5000万億未満 or 年収入2000万未満	—

出典：NEWS 1 HP 内「수저계급 기준표 (スプーン階級基準表)」より作成
 最終閲覧日：2020年12月26日 <https://www.news1.kr/articles/?2458053>

3 수저 계급론 (スプーン階級論)

「スプーン階級論」は2015年10月に登場した新語であり、親の社会的地位や財産に応じて、社会が階級に分かれることを意味する(국립국어원 (National Institute of Korean Language) 2016)。これは英語表現である「silver spoon」に由来する。本来、「Born with a silver spoon in his mouth」という表現から、銀のスプーン=財力の持ち主だったが、オリンピックなどのメダルが金銀銅であることから、金銀銅の順番で財力の大きさを示すようになった。まず「金のスプーン」が流行語になり、2015年の流行語として「○○のスプーン」が流行り、金銀銅にとどまらず、ダイヤモンドから泥のスプーンまで多様になった。そして、これらのスプーンを序列化した「スプーン階級論」が誕生した。今では、SNSで流通している「スプーン階級」基準表(表2)を通じて、自分がどの階級に入るのかも確認できる。スプーン階級論の中でも「금수저 (クンスジョ: 金のスプーン)」は、2015年には若者の現状を表す代表的なキーワードとなり、先述した「헬조선 (ヘル朝鮮)」が2位となった同年のアンケートで44%を占めて1位となった(알바천국 (Alba Heaven) 2015)。

「スプーン階級論」は、所得の両極化が深刻な韓国社会で、富裕層と貧困層の格差が固定化していることを表す概念としても用いられる。富裕層に生まれた子供はずっと楽に暮らし、そうでない子供たちは生まれたときから「LOSER」として生きる運命であり、家庭環境によって人生が決まるという若者の認識がそこに込められている(조한혜정, 엄기호, et al. (Cho, Eom, et al.) 2016)。実際、韓国社会では所得の上位10%が国全体の所得の45%を占めており(SBS 2016)、この

言葉は韓国社会の現状を表しているという意見もある。また先述した大学進学に関しては、2015年の研究によれば、親の経済力によってソウル大学⁷⁾に合格できる可能性が80~90%ほど異なることが明らかになった(김세직, 류근관, 손석준 (Kim, Ryu & Son) 2015)。

4 노오력 (ノオリョク)

「노오력 (ノオリョク)」は2015年7月に現れた新語であり、「努力」を意味する「노력 (ノリョク)」のノに長音を付け、伸ばして発音することで、年長世代が若い世代にあまりにも努力を強いることを皮肉な口調で話すときに用いられる(국립국어원 (National Institute of Korean Language) 2016)。努力すれば何でもできるという親世代、そして韓国固有の価値観に対する新世代からの批判として用いられる。「スプーン階級論」と一緒に用いられ、「いくら努力したって金スプーンの持ち主には勝てない」という皮肉な口調で使われることもある。

高麗大学の허태균 (Heo Tea Kyun) は、努力は世界的に重要視される社会的美德であるが、東アジアの人たちは西洋の国々の人たちと違って、自分の否定的な側面に関してどう努力すれば発展できるかを重要視するという。このような文化的な要素に加えて、過去70年間に急激な経済発展があったことから、韓国は非常に努力を重視する社会になったという(허태균 (Heo) 2015)。

しかし現在、努力しても叶わない社会状況を経験している若者にとって、この美德は世代間の葛藤という悪影響をもたらす傾向がある。つまり「ノオリョク」という言葉には、親世代であるいわゆる386世代⁸⁾と、今の若者世代との間の葛藤が現れている。386世代が若者だった時期は大学進学率が今より高くなく、急速な経済発展によって企業側は常に人手不足だったため、「良い大学」出身であれば就職は保証された。しかも「良い大学」出身ではない、もしくは大学を出ていない人も「良い企業」に入ることが可能だった。しかし現在では状況が変化している。その結果、386世代の新世代に対する、「努力しないからできないのだ」、「ノリョクだけでは足りない、ノオリョクしろ」といった声は、世代間の対立を悪化させる。そして、努力を強いられて、努力をしても何も達成できない現実から、若者の社会に対する不満は大きくなるのである。

5 n 포세대 (n 放世代)

「n 포세대 (n 放世代)」は2015年8月に登場した新語であり、社会・経済的な

状況によって、定数「n」個のものを諦めなければならない世代という意味である（국립국어원 (National Institute of Korean Language) 2016）。日本の「さとり世代」とも似ている。恋愛、結婚、出産を諦めた「3放世代」から始まり、就職と家加わった「5放世代」、人間関係、希望、健康、美容まで加わった「9放世代」へと、数字が徐々に大きくなったことから、「n放世代」と名前を変えた。韓国の主要な求職サイトであるサラミン（사람인：Saramin）で2016年、20～30代955人を対象に行った「就職難と経済的困難によって諦めたことの有無」というアンケート調査によると、75.7%が、実際に一つ以上のことを諦めたと回答した。この結果は、前年の2015年に行われた同じ調査での69%より、さらに6.7%増加していた（사람인 (Saramin) 2016）。n放世代が諦めることは、普通の人生を想像したとき、必ず伴うはずのことである。今では「10放世代」という言葉も出てきており、10番目の項目が「命」であることを鑑みると、n放世代という流行語が表す社会状況はかなり深刻に思われる。韓国は OECD 諸国中、2018年まで不動の自殺率1位の国だった。2018年には2位になったものの、自殺率に大きな変化があったのではなく、新しく OECD 国家に加盟したリトアニアの自殺率が韓国より高かっただけであった。中央自殺予防センター（Korean Suicide Prevention Center）の調査によると、韓国の自殺率自体は毎年少しずつ減っているが、10代と20代の自殺率だけは増えている（중앙자살예방센터 (Korean Suicide Prevention Center) 2018）。人生を生きていく中で、普通に伴うと思われることが手に入らない、遠い存在になっていくという憂鬱な現状から、国家に対する不満にとどまらず、個人としての挫折感も高くなっていると考えられる。

6 考察

本章で紹介した2014年以降の流行語は、スベック重視の学力社会、就職難、ワークライフバランスの不均衡、貧富格差、世代格差など、韓国社会の現状から若者が感じる負担感・敗北感・貧富格差・世代間葛藤・挫折感などを表したものである。その背景にある社会状況は、新型コロナウイルスの影響も加わり、少子高齢化などの影響も含めて、急速に改善されるとは予想しにくい。にもかかわらず、先述したアルバイト求人サイトであるアルバ・天国が2017年に、1,002人のアルバイトの若者に実施したアンケート調査によると、これ以上聞きたくない、流行しないしてほしい新語として「ヘル朝鮮」が29.8%を占めて1位となり、スプーン階級論を表す「金のスプーン」と「泥のスプーン」が27.6%で2位となった（알

마천국 (Alba Heaven) 2017)。この調査が行われた2017年の流行語も、それ以前のような若者がおかれた状況を自嘲するものから、若者の自己啓発に傾注する趣旨のものが主になった。次章では、このような、2017年を起点とした流行語の変化を考察する。

Ⅲ 2017年以降の流行語

2017年以降の流行語である、「複世楽生」、「YOLO 族」、「小確幸」、「一人族」は、第Ⅱ章で紹介した流行語とは異なる雰囲気を持っている。すなわち、ミレニアル世代の特徴とされる気質、今日の韓国人の若者特有の特徴を表すとされる流行語である。ベビーブーマー世代⁹⁾、386世代と比較して、ミレニアル世代は個人主義へと進んでいるといわれる。「彼・彼女らは人生の評価基準を自分の内部から探し」(정원희 (Jeong) 2018)、周りの目を気にするより今の自分の生活に集中して、満足しようとする傾向があるという。このようなミレニアル世代の特徴が、望ましくない韓国社会の現状と相まって、流行語として表現されている。

1 북세편살 (複世楽生)

「북세편살 (複世楽生)」は、「복잡한 세상 편하게 살자 (複雑な世の中、楽に生きよう)」の略語である。基となったのは2014年、ある中年の俳優¹⁰⁾ がファンたちの中で生じた誤解を解決しようと SNS で使った表現である。この言葉が初めて登場したのは2014年だが、本格的に流行し始めたのは2018年以降からである。そこには、この世の中自体も既に複雑なのに、自らの心まで複雑にさせてまで生きる必要はない、心だけでも楽にして生きていこうという意味が込められている。

「複世楽生」は、この言葉自体が流行語として多く使われたというよりは、次に紹介する「YOLO 族」、「小確幸」、「一人族」といった言葉の基本となる心構えとして作用している。その精神が最も表れているのが、2018年後半、韓国のネットで若者の間で流行った遊びである。きっかけは、アメリカの子供教育アニメ「アーサー」で放映された、ツチブタのアーサーの1シーンだった。アーサーは耳が頭の上に付いているが、このシーンでは、体の構造を気にせず、耳がないこめかみのあたりにヘッドフォンを付けている。このシーンをツイッターのあるユーザーが「適当に生きよう、アーサーのように」と名付けて投稿したことから、「適当に生きよう、～のように」という遊びが韓国のネットで流行るようになった。

このように、楽に生きよう、または適当に生きよう、「ノオリョク」してまで自分を傷つける必要はない、という若者の心情が「複世楽生」という言葉に表れている。

2 율로족 (YOLO 族)

2016年12月に登場したこの言葉は、今、この時点の人生に充実しながら、自分の楽しさと幸せを追求する人や集団を意味する(국립국어원 (National Institute of Korean Language) 2017)。YOLO は、You Only Live Once の頭文字をとった略語であり、元来は毎日を、その瞬間を大切にするという意味で使われていた。しかし、「YOLO 族」の YOLO は、従来の意味とは少しずれた意味を持っている。その YOLO の新しい意味は、カナダのラッパーであるドレイクが2012年に自曲¹¹⁾ で使ったのがきっかけとなり世界中で流行した。この新しい意味では、YOLO とは「一回きりの人生だから、今日が最後のように生きよう」といった意味で使われている。

YOLO が世界中のミレニアル世代に流行した理由は、2008年のリーマンショックだと言われる。世界的な経済危機を経験して、今貯蓄しても、いつ全てがなくなるかわからないことから、未来に備えるより、今を楽しもうという風潮が生まれたとされる(월간산업보건 (Korean Industrial Health Association) 2019)。

韓国のミレニアル世代の若者の間でも、YOLO の影響は顕著に現れた。韓国の求職サイトであるインクルート(인크루트: Incruit) が2017年に1,523人を対象に行った「2017年流行語アンケート調査」によると、YOLO は13.8%で2位を占めた(인크루트 (Incruit) 2017)。また、先述の就職サイトであるジョブ코리아とアルバイト求人サイトであるアルバモン(알바몬: Albamon) が2017年に20~30代の734人に対して行った共同調査によると、44.4%が自分は「YOLO 族」だと答え、70.7%は「YOLO 族」という言葉をポジティブに考えると回答した(잡코리아 (JobKorea)、알바몬 (Albamon) 2017)。

韓国の YOLO 族は、予想できない世界的経済危機などの不安と、はっきりと予想できる、望ましくない将来への不安の共存から誕生した。努力して良い学校、良い職場に入っても暗い社会事情のためどうせ明るい将来はないから、明るい未来を想像してその未来のために生きるより、将来が暗くても、今現在を明るく、幸せに生きればよいという心情である。

韓国で YOLO 族が増加していることは、新入社員の退社率の増加に最も現れ

ている。第Ⅱ章で述べたようにワークライフバランスも悪い会社に、ストレスを感じながら勤務したくないと思う若者が増えたのである。韓国経営者総協会 (Korea Enterprises Federation) が2016年に306社を対象に行った「2016年新入社員採用実態調査」によると、大卒新入社員の1年以内退社率は27.7%であり、2014年に比べて2.5%増加した (한국경영자총협회 (Korea Enterprises Federation) 2016)。就職サイトであるサラミンが2019年に576社を対象に行った調査によると、入社1年以下の社員の退社率は27.8%だった。また入社1年以下で退社する人の割合は、年間の退社する人全体の48.6%を占めていた (사람인 (Saramin) 2019)。

しかし最近では、YOLO 族に対する懸念も表明されている。特に新型コロナウイルス感染拡大によって就職難がますます深刻化することで、YOLO しようと退社した後、再就職できず、生活が困難になるケースも出ており、YOLO 族を慎む傾向も現れている。また、韓国は深刻な少子高齢化社会になっていることから、今備えておかなければ将来の生活が困難になり得るとの懸念もある。実際、市場調査専門企業であるエムブレイン (엠브레인 : EMBRAIN) が2017年に、成人男女1,000人を対象に行ったアンケート調査によると、YOLO ライフを楽しむ際に問題になる要素の第1位は老後準備に対する負担・不安であり、51.5%を占めた (엠브레인 (EMBRAIN) 2017)。

YOLO 族は、ミレニアル世代の「複世楽生」の心構えを実践する動きとして現れたが、YOLO をすることによって今を幸せに生きられるという考えと同時に、YOLO をするのは無謀すぎるという懸念も表明されている。このようななか、将来に対しても負担のない範囲で「複世楽生」の考え方は持てるという「小確幸」という言葉が登場した。

3 소확행 (小確幸)

소확행 (小確幸) は、1999年に発表された村上春樹のエッセイ集『うずまき猫のみつけかた』に登場した「小さくても確かな幸せ」という表現に由来する略語である。この言葉には、大きな幸せを見つけることが難しい世の中で、小さくても確かな幸せを満喫しながら人生を送りたいという若者の願望が含まれる。小確幸は、2017年にはYOLO が2位となった「流行語アンケート調査」で、2018年に1位となった (인크루트 (Incruit) 2018)。今の生活だけを楽しむYOLOは将来のリスクが比較的大きい反面、小確幸という発想は、未来に影響を及ぼさず確かな幸せを感じるという点で、広く好まれる傾向がある。また、小確幸は「小さな

幸せ」であるから、多くの場面で満喫できるため、この発想を支持する人が多い。おいしいご飯を食べることも、友人に会うことも、家で1人お酒を楽しむことも、映画を見ることも、些細なことで自分が幸せと感じるなら、それは小確幸である。

小確幸という発想の影響は、韓国の書店に見られる。若者に現在の辛さに耐えて未来の大きな幸せを掴むことを啓蒙した、キム・ナンドの『つらいから青春だ』が、2011年のベストセラーとして総合1位となったのに比べて（교보문고 (Kyobo Books) 2011）、2018年の総合ベストセラー1位は、人生の疲れを慰めるエッセイ集、『くまのプーさん 小さなしあわせに気づく言葉』だった。そして3位までを、全て「癒し系」のエッセイ集が占めた。韓国最大の書店である教保文庫（교보문고 : Kyobo Books）が2018年のベストセラーキーワードとして選んだのも、「투닥투닥 (トダットダッ) (よしよし)」だった（교보문고 (Kyobo Books) 2018）¹²⁾。これらの結果から、若者たちは、苦しみながら頑張らなくても大丈夫、小さな幸せでも大丈夫という慰めの言葉を求めていると同時に、複雑な世の中を生きていくための、負担の少ない解決策を見つけないのだと考えられる。

4 혼족 (一人族)

集団主義だとされる韓国社会では、かつて、一人で何かをするのは恥ずかしいことだという社会通念があった。特に、お店で一人で食事することは、社会性のない人の代表的な特徴とみなされていた。これは若者の間でも例外ではなかった。例えば大学の食堂で一人で食事をする人は、あまり学校生活に馴染めてない可哀想な人¹³⁾ という認識が強かった。また韓国社会において、一人で何かをするということは日本人の特徴であり、韓国人とは異なる特徴だという認識が強かった。しかし2015年9月に登場した「혼술족 (一人酒族)」という言葉から「혼 (ホン) ○○족 (ゾク) (一人+○○+族)」という、一人で何かをする人々を示す言葉が流行り、今では、一人で何かをすることは全くおかしいことではなくなった（국립국어원 (National Institute of Korean Language) 2015)。

現在、韓国社会において一人で何かをやるのは、少なくとも若者の間では、自然だと思われている。学生の間で、「혼밥족 (ホンバップジョック) (一人ご飯族)」という新語が流行り、「ひとり飯チャレンジ」ができたほど、かえって一人で何かをやることを、自立した人の象徴だと捉える動きが現れた。

5 考察

本章で紹介した、「複世楽生」、「YOLO 族」、「小確幸」、「一人族」といった流行語は、韓国の暗い社会状況を生き抜くための若者の心構えを表している。複世楽生を基盤として、YOLO 族は、韓国に限らないミレニアル世代全般の特徴を反映し、その後の小確幸は、小さな幸せを確保するという若者の願望を表す。そして一人族は、従来の韓国社会の習慣とは異なる若者の新たな思考を示す。

IV インタビュー調査

1 インタビューの方法

本章では、韓国の若者へのインタビュー調査を基に、彼・彼女らが流行語と流行語が表す社会状況、そしてその変化をどのように認識しているのかという点について考察する。6人の対象者を選定し、個別にインタビューした。いくつかの質問を事前に決めておき、適宜追加の質問をする、半構造化インタビューを採用した。流行語の影響を最も肌で感じるのは中高生の頃だと判断し、本論文で扱う流行語に合わせて、2015年に中高生で現在は大学生または受験生の6人をインタビューの対象とした。その内訳は、生まれてから現在までのほとんどを韓国で過ごしてきた3人(K1、K2、K3)と、高校卒業後、海外に移住し、現在海外に在住する3人(A1、A2、A3)に分けられる。「ヘル朝鮮」「脱朝鮮」という流行語があることから、韓国在住の3人には今後の海外移住(脱朝鮮)の希望の有無を尋ね、海外在住の3人には海外に移住した原因に韓国社会への不満があったか、そして今後、韓国に戻る希望があるかを尋ねた。

そのほか、各インタビュー協力者に共通して尋ねた設問は5つあった(表3)。そして、インタビューの進行に応じて、その他の質問も行った。インタビュー実施前に、対象者にはその目的・対象を説明し、予想所要時間(60~90分)と答えたくない質問に無理に回答する必要はない旨を説明した。また、聞き取った内容の正確な記録のために、メモを取ることと、録音・録画を行い、内容は本人と指導教授のみで見たり聴いたりできる点に承諾を得た。最後に、聞き取った内容を論文執筆の際に、データとして活用し、論文がネットに公開され得る点に関して承諾を得た。

表3 インタビューの設問（共通）

1	本論文で紹介する8つの流行語を知っているか？ O/X
2	これらの流行語が韓国社会を反映していると考えるか？
3	本論文では流行語の種類の変化によって2つの時期に分けたが、その変化に同意するか？
4	2014～2016年と2017年以降の流行語で、最も実感できたものは？
5	今後、新しく登場する流行語はどのような特徴を持つと考えるか？
6	（国内在住者向け）海外に移住するつもりはないのか？
7	（海外在住者向け）海外に移住した理由に韓国の社会状況も関係するのか？
8	（海外在住者向け）今後韓国に戻るつもりはあるのか？

表4 インタビュー対象者概要

<韓国在住>

対象者	性別	インタビュー実施情報	基本情報
K1	女	2020年11月 オンライン	20代、ソウル市在住、大学3年生
K2	女	2020年12月 オンライン	20代、ソウル市在住、 公務員試験準備中
K3	女	2020年12月 オンライン	20代、京畿道在住、 日本学部留学準備中

<海外在住>

対象者	性別	インタビュー実施情報	基本情報
A1	女	2020年9月 オンライン	20代、イギリス在住（2017～現在）、 大学4年生、地元はソウル市
A2	女	2020年10月 オンライン	20代、アメリカ在住（2017～現在）、 大学4年生、地元はソウル市
A3	女	2020年11月 オンライン	20代、日本在住（2017～現在）、 大学4年生、地元は蔚山市

2 インタビューの結果

(1) K1

K1は、小学校1年生の時に一年間アメリカで在住した経験以外は、韓国の学校に通っていた大学3年生である。K1は、8つの流行語のなかで「ノオリョク」以外は全部知っていた。そして、上記の流行語が韓国社会を上手く表していると

表5 インタビュー結果

	K1	K2	K3	A1	A2	A3
流行語の把握数	7/8	8/8	6/8	4/8	8/8	8/8
把握していない流行語	ノオリヨク	なし	ノオリヨク n 放世帯	ヘル朝鮮 ノオリヨク n 放世帯 小確幸	なし	なし
最も実感できた単語 (2014~2016)	ヘル朝鮮	n 放世帯	ヘル朝鮮	スプーン階級論	ヘル朝鮮	なし
最も実感できた単語 (2017以降)	一人族	複世楽生	小確幸	複世楽生	複世楽生	なし

考えており、「ヘル朝鮮」や「脱朝鮮」などの流行語が出現したのは、厳しい受験や就職状況といった、それなりの理由が存在するからだという。だが、これらの否定的な意味合いの流行語を彼女はあまり好きではない。それは、母国の悪口を言うことに違和感を覚えるためである。

K1は、2017年以降、新しい種類の流行語が登場したのは認めるものの、流行語の転換が完全に行われたとは思わないという。K1の周りでは2014年から2017年の間に現れた流行語は今でもたくさん使われている。特に、在学生が匿名で書き込みできる学校別のコミュニティアプリ、エヴリタイム (에브리타임: everytime) には、韓国の否定的な側面を「ヘル朝鮮」「脱朝鮮」といった語句を用いて批判するような、政治的な書き込みもよく目にするという。

K1は、最も実感する2014~2016年と2017年以降の流行語を、それぞれ「ヘル朝鮮」と「一人族」だとした。その否定的な意味合いをあまり好まないにもかかわらず「ヘル朝鮮」を選んだのは、それが今の自分の状態を代弁するためだという。K1は、不動産学科というかなり特殊で、通常は就職が容易である学科に在籍する。だが、現在の政権で不動産規制が増えたことから、就職が難しくなったという。しかし、だからと言って海外に移住するつもりはなく、周囲の友人でもそのような計画を持つ人はいない。韓国で就職ができないと言っても、海外移住に伴う金銭や語学の問題のほうがより大きいためである。

いっぽう「一人族」を選んだ理由は、最近のトレンドに合う言葉であるからだ

という。K1は2017年に20歳を迎えたが、ちょうどその頃から、一人で何かをすることが社会で認められるようになったと言う。K1自身も、最初は一人で何かをすることが不自然だと思っていたが、最近はネット上やメディアでも一人族という言葉が多く登場し、むしろ一人で何かができない方がおかしいと思われるようになったという。

K1は、今後、韓国の社会状況に批判的な流行語も、社会より個人の心構えに関する内容の流行語も共存した形で現れるだろうと予想した。最近の流行語は、確かに「癒し系」の傾向のものが多いが、それでも社会への不満や、その不満を引き起こす社会問題が解決されたわけではないため、それらを表す流行語が完全になくなることはないと考えからである。

(2) K2

K2は、大学卒業後、アルバイトと公務員試験の準備を並行している。K2は、8つの流行語を全て把握していた。これらの流行語は、韓国社会と今の自分の状況を上手く表しているという。本論文で論じた流行語の変化についても、言われてみれば、確かにその変化がわかると話した。K2は、特に「複世楽生」「小確幸」などの言葉を一昨年(2016年)から使うようになった。しかし、だからと言って「ヘル朝鮮」などの言葉をあまり使わなくなったわけではなく、流行語が流行っていた2014～2017年より、むしろ最近になって使う頻度が増えたという。その理由は、高校生の時より大学卒業後に社会の現実に直面したこと、実際の社会状況がさらに悪化したことを挙げた。K2は、「複世楽生」や「小確幸」など、一見ポジティブに見える現在の流行語も、幸せな将来が保証されない若者が、全てを諦めた(K2は「解脱」¹⁴⁾という表現を使いた)ことで登場したという。国家が豊かであり、将来が保証されていれば、このような流行語も現れなかったはずだと考えている。そして社会全体として「ヘル朝鮮」などの否定的な流行語が言及される頻度が少なくなったのは、それがもう当たり前になったためだという。

K2は2014～2016年と、2017年以降の流行語で最も身近に感じた言葉として、それぞれ「n放世代」と「複世楽生」を挙げた。「n放世代」を挙げた理由は、社会状況が原因で諦めなければならないことが大人になるにつれて増えているためである。「9放世代」の恋愛、結婚、出産、就職、家、人間関係、希望、健康、美容の中からまだ諦めていないことは何かと尋ねると、K2は「家以外はすでに全部諦めた」と言った。就職は就職難から、人間関係・希望・健康・美容は、厳

しい世の中でそれらにまで執着する暇がないから、結婚と出産はこの社会で子供を育てることは難しいから諦めなければならないと言う。家柄など、生まれ持ったもので今後の人生が決まる。そして自分の能力や努力(「ノオリョク」)だけではやっていけない社会になっているとつけ加えた。

海外に移住するつもりはないのかという質問に対しては、自分が外国生まれの外国籍だったらそれも考慮しただろうが、韓国生まれの韓国国籍である以上、外国に移住しても自分は外国人に過ぎないから、海外に移住するつもりはないという。そして、韓国は長所と短所がはっきり分かれている国だと言いながら、お金さえあれば生活しやすい国だとも述べた。

2017年以降の流行語として「複世楽生」を選んだ理由は、自分が似たような心構えを持ち始めた頃、この語が流行り始めたためだという。昔は人間関係においても、その人の全てを知りたい、またはその人が自分に全てを打ち明けて欲しいと思う性格だったが、今は、現実も厳しいのに、人間関係にまでこだわる必要はないと思うようになったという。そして、「複世楽生」を追求するようになって、一人で何かをすること、つまり、「一人族」として活動する頻度も増えた。ご飯を食べたり、映画を観たり、一人ですれば簡単に終わることが、他人と一緒に行えば、簡単には終わらない(映画を見た後、食事に行くなど)。これに、K2は「疲れ」を感じるという。

将来の流行語・社会事情の変化に関して、K2は、社会事情が悪化するなかで、ポジティブな流行語が増えると予想した。社会事情に関しては今の私たちの世代が歴代で初めて、親世代より社会状況が厳しい世代であり、今の若者世代をはじめとして、状況は段々厳しくなると予想した。同時に、厳しくなる社会事情からの「解脱」によって、ポジティブな流行語もたくさん出現すると予想した。

(3) K3

K3は、現在日本留学を準備している受験生である。小学生の時は韓国の公立小学校に通い、中高はキリスト教の代案学校¹⁵⁾に通った。そして、高校3年生の時に韓国の大学受験をしたが、現在は日本の大学の受験に志望を変えて準備している。K3は、「ノオリョク」と「n放世代」以外の流行語は全て把握していた。

K3は、韓国社会と自分の現在の心構えが全て、上記の流行語を通じて表現されていると話した。そして、2014~2016年と2017以降の区分で、最も実感できた言葉としてそれぞれ「ヘル朝鮮」と「小確幸」を選んだ。「ヘル朝鮮」は、K3

自身が日本留学を準備していることから選んだ。K3は、韓国と日本の最も大きな差は就職率だという。K3の周りの韓国人の若者は、良い大学に入っても就職ができず、無理に大学院に行く人が多い。K3は、この現状から「脱朝鮮」、つまり海外移住を決めたという。そして、将来どうなるかはわからないが、今の時点では、韓国に戻るつもりはない。

K3は韓国を「ヘル朝鮮」と思う理由として、就職難以外にも、「良い人生」に対する非常に高い基準と、その基準を他人にも適用する傾向を挙げた。周りの「良い人生」の基準に合わせて生きることが苦痛だとK3はいう。「小確幸」はこのような「ヘル朝鮮」の中で、自分が挫折しないような充電器として作用するという。K3は、頑張っって勉強して耐えられないほど辛いと思う時に、好きなタピオカを飲むこと、または鉛筆などの文房具を好きなディズニーの製品で揃えることが自分の「小確幸」で、生きる理由にもなっているという。

将来の流行語や社会状況の変化について、K3は、世代の変化による価値観の変化から、社会状況は今とあまり変わらなくても、人々の社会に対する見方は変化し、流行語もその変化に応じて変わると予想した。特に、人をスペックだけで判断する文化は変わるだろうという。そうした価値観の変化は、今でも少しずつ現れていて、「new collar 時代」¹⁶⁾という言葉がその象徴だという。

(4) A1

A1は、2017年から現在までイギリスの芸術大学に留学中の学部生である。A1は、2014～2016年の流行語は、「スプーン階級論」以外は知らなかったが、説明を聞くとすぐ、現在の韓国の状況を説明する流行語だと認識した。これらの流行語が現在の韓国社会を反映していると考えるかという質問について、A1は流行語が自分自身の状況とは完全に当てはまるとは言えないが、周りの韓国人の友達の話の聞いていると、韓国の社会事情に当てはまると実感できると話した。特に驚いたのは、自分の祖母がA1に対して、韓国よりも海外に住んだ方がいいと話したことだという。この話から、現在の社会状況が厳しいと感じるのは、単純に同世代の若者に限る話ではないと実感した。

A1は高校時代の進路選択に際して、自分自身は韓国の芸術大学も悪くないと考えたが、A1の母親はそれに反対した。A1は母から、韓国の芸術大学は型にはまった傾向があると言われて、イギリスの大学への留学を決心したという。

A1は、2014～2016年と、2017年以降の流行語の変化は、特に周囲の人々を見

て実感した。自分が最も実感したものとして、「金のスプーン」と「複世楽生」を挙げた。「金のスプーン」は、実際に友達の間でよく使われる言葉であるが、個人的にはあまり好まないという。それは、人を階級に分けて見る、人柄より背景を重視する感じだからである。嫌いな反面、友達の間でも多く使われるため、自分自身もこの流行語を受け入れるべきか悩むという。「複世楽生」については、この言葉が流行り始めた頃、すでにイギリスに移住していたため、自らの生活がこの流行語と関連があるわけではないが、ネットや韓国在住の友達を見ると、最近の韓国社会は「複世楽生」を求めているとわかる。最近はみな「私が好きなもの」「私が欲しいもの」を重視することを実感する。例えば、周りで「私が好きなもの」を書いてみるのが流行っているという。A1は、この傾向について、自分が本当に好きなことをする機会と時間が増えて、その幅も広がるという、肯定的な変化だと感じている。

A1は、第一志望の就職先が韓国にあるため、卒業後、すぐ帰ることを決めたが、周りの韓国人留学生は大体1、2年間は現地で働いて経歴(=スベック)を積んで帰国する人が多い。しかし、完全にイギリスに定着するケースはあまりない。BREXITなどで経済的に不安定であること、徐々に変化するのではなく、急激な変化が多いことがその理由だという。

今後の韓国の社会状況と流行語の変化についてA1は、年金が保証されないといった将来への不安から、若者の社会に対する否定的なまなざしは増すだろうと予想した。また、ミレニアル世代から始まった個人化によって、「デジタル遊牧民」¹⁷⁾など国籍と国境の重要性も少しずつ薄まって、海外に移住する人が増える予想した。A1は、そもそも社会現象を内包する流行語が登場した理由は、個人の考えを自由に口に出せない韓国社会の雰囲気があると認識する。今後、ミレニアル世代やZ世代¹⁸⁾へと世代交代が進めば、徐々に自分の考えを自由に表明できるようになり、流行語を介さなくても、直接的に現在の社会状況を議論するようになると予想した。

(5) A2

A2は、高校卒業後の2017年から現在までアメリカに在住し、パイロットになるための勉強をする大学4年生である。A2は、8つの流行語を全て把握していた。A2は、これらの流行語が社会に対する自分の思いや、これからの人生を生きるための心構えを代弁していると話した。

A2は、2014～2016年の流行語と2017年以降の流行語が、現在は共存していると述べた。そして、各時期で最も実感できた流行語として、「ヘル朝鮮」と「複世楽生」を選んだ。「ヘル朝鮮」という流行語によって、自分がそれまで感じてきた、抑圧されているという感覚を定義できたという。すなわち、良い大学に入学することにこだわるものの、それが非常に難しい競争社会の韓国で、高校時代に感じていた抑圧感である。同時期にフェミニズム運動が盛んになったことから、男女差別のないパイロットを志望するようになった。特に、女子パイロットをあまり見かけない韓国とは状況が異なる、アメリカへの留学を決めたという。韓国では航空産業自体がサービス業という認識が強く、航空産業、特にキャビン・アテンダントに対する性差別的な価値判断が存在するため、アメリカで教育を受けてから韓国に戻ってそのような認識をうち破りたいという。

A2は、2017年以降の流行語の中では、「複世楽生」が最も実感すると答えた。まさに自分自身が「複世楽生」の生き方を実践しているためである。元々、気楽に生きる主義だったが、自分の考え方を代弁する言葉がたまたま流行語になったという。しかし自分の考え方は、現実では通用しない「YOLO族」とは、また違うとA2は強調した。YOLOは、自分がやるべきことを諦めながらも、今の楽しさを追求する現実逃避だという。

A2は、大学卒業後、韓国に戻る予定である。グリーンカード（永住権）がない以上、アメリカでパイロットとして働けないためである。A2によれば、一般学科の学部で学ぶ韓国人留学生のほとんどが、大学卒業後にアメリカで1年程度のoptional practical training¹⁹⁾を終えた後、会社がスポンサーをしてくれればビザを取得してアメリカに残るが、そうでできなかった人たちは韓国に戻るか、または大学院に行くという。

A2は、新型コロナウイルス感染拡大という特殊な状況の後、今後の韓国の社会事情と流行語は、現状では予想できないものになると考える。それでも韓国は競争社会であり続けるだろうという。A2は、そのような競争社会のなかで、一緒に頑張って生きていこうというメッセージが流行する可能性も述べた。

(6) A3

A3は、高校卒業までは韓国の蔚山市に在住し、大学からは日本へ留学した。今年から、日本の企業で働く予定である。A3は8つの流行語を全て知っていた。しかしA3は自分自身も周囲も、上記の流行語に関して話すことはあまりない。

流行語自体は、ニュースなどのメディアを通じて社会問題として認識していたが、それが表す問題を肌で感じたことはないという。日本留学を希望した理由も韓国の社会状況とはあまり関係がなく、外国語高校で日本語を学んでいたため、自然と日本留学を準備するようになった。A3は流行語が表す社会状況を身近に感じなかった理由として、二つの可能性を挙げた。一つ目は、上記の語が流行り始めた時代は学校寮に住みながらメディアやSNSと断絶されており、大学からは韓国を離れていることから、それらを実感する機会がなかったことである。二つ目は、住んでいた地域の特性によって、それらを実感する機会がなかったことである。A3は、流行語が表すような格差を人々が感じるのには、自分より豊かな層が社会に存在すると認識した時だけだと話した。つまり、ソウルに住む人々は、「金のスプーン」の持ち主が教育歴などではるかに有利であることを普段から知っているため、相対的剥奪感や格差を感じる。だが、ソウル以外、または首都圏以外の人々は、そのような格差を感じるほどの情報がそもそもないため、格差への不満を持たない可能性があるという。

ただし、流行語はあまり身近に感じていなくても、ここ1、2年、帰省して中高時代の友人と会うと、就職難は確実に実感するという。就職活動の準備のために休学して、その後復学した友達が多い中、休学せずに4年間で大学を卒業した友人は就職ができず、会計士を準備することが多い。

A3は、去年までは絶対に韓国では働きたくないと思っていたが、今は良い機会があれば、韓国で働く意思もあると話した。今回の新型コロナウイルス感染拡大への韓国政府の対応を見て、考えが変わったという。周りの留学生仲間の中でも、最近では、就職は韓国でしたいと考える友人が増えた。A3は、まずは日本でキャリアを積んでから、韓国や、また違う国に移住する予定だと話した。

今後、メディアの発達と教育の質が高まるにつれて、上流層が享受する特権を認識する人が増え、貧富の格差に不満を持つ人も増えるだろうと、A3は予想した。そして学歴を上げて上昇移動を試みる傾向が強くなることから、「良い企業」への就職希望者はさらに増えて、就職難はさらに深刻になると予想する。流行語に関しては、不満を表す言葉はいったん収まったと思っており、これからは現状を改善させるような、ポジティブなものがさらに誕生すると予想した。

3 考察

インタビュー調査の結果、ほとんどの対象者は、2014～2017年と、2017年以降

の流行語は、現在の韓国で共存していると捉えていた。その中には、社会問題が深刻になるにつれて、若者たちの「解脱」の傾向が強まったことから、一見するとポジティブな流行語が2017以降に登場したという意見があった。それら社会問題はすぐには改善されないことが予想される一方、今後の流行語はそうした一見するとポジティブなものが増えるという予想が多かった。また、世代交代による価値観の変化によって、流行語を通じてではなく、社会に対する不満をより直接的に表現するようになるという意見もあった。

2014～2016年の流行語において、インタビュー対象者が最も実感したものは「ヘル朝鮮」が最も多かった。「ヘル朝鮮」という言葉自体はあまり好まないが、韓国の現状を表現し、自分の現状を代弁するという意見があった。ただしインタビューを通じて、第Ⅱ章で述べた流行の原因とは異なる「ヘル朝鮮」の背景を知ることができた。それは、韓国人が他人に対する強い興味を持ち、「良い人生」に対する高い基準とその基準を他人にも適用する傾向があること、性差別が存在することなどである。

2017年以降の流行語のなかでは、「複世楽生」を実感する人が最も多かった。「複世楽生」という心構えを通じて、他人の目ではなく自分自身に集中するようになったという意見が多かった。これは、第Ⅲ章で紹介したミレニアル世代の特徴とも共通する。自分は「複世楽生」だが「YOLO」ではないという意見もあり、これも第Ⅲ章で論じたYOLO族に対する懸念が実際にあることを示す。

ただし、メディアを通して流行語が表す社会状況を把握していても、それが自分と直接関わりのある問題だと感じたことはないという意見があり、地域差が存在する可能性が示唆された。2019年の人口住宅総調査の調査によると、韓国の総人口数5177万9,203人のうち、首都圏（ソウル市、京畿道、仁川広域市）が約半分の2589万2,678（50.01%）を占めている（인구주택총조사 (Population and Housing Census) 2019）。本論文で取り上げた流行語や、その背景にある格差の拡大といった社会問題は、首都圏の人々が特に実感している可能性がある。

また、韓国在住者の海外移住に対する考えと、海外在住者の帰国に対する考え方をそれぞれ知ることができた。韓国在住者の3名は、海外移住に関して各自が異なる意見を持っていた。韓国を離れることで就職がより容易になり、就職難が解決され「ヘル朝鮮」の解消につながり得るという意見もあったが、海外移住が短期的な問題解決にはなっても、移住後の言語・文化の違いや、外国人としての問題が発生するという意見があった。一方、海外在住者の3名は、異なる国に住

んでいたが、いずれも韓国に戻る意思を持っていた。A1が在住しているイギリスでは、イギリス特有の経済的不安から、A2が在住しているアメリカでは、就労ビザ問題から、そしてA3が在住している日本では、コロナに対する韓国政府の対応から、それぞれ韓国に戻る意思を持つ人が多いという。

V おわりに

本論文では、第Ⅱ・Ⅲ章で韓国社会における流行語と、その背景にある社会状況を考察し、第四章ではインタビュー調査を通じて、韓国人若者の流行語や韓国社会に対する考えを考察した。流行語の分析からは、2014～2016年の流行語と2017年以降の流行語では傾向が異なることが明らかになり、インタビュー対象者の若者たちもその変化を認めていた。

考察から、韓国人の若者たちは流行語の受容を通じて、現在の社会問題に対して四つの段階による問題解決を試みていると示唆される。それは、問題の定義—原因の分析—代案の提起—実行の管理という四つの過程である。このことは、流行語の登場—適用—変化—適用という過程において表れる。まず、2014～2016年の流行語が、韓国の社会問題の実態を、やや過激な表現で明確に指摘したことで、韓国社会の抱える問題の定義が社会的になされた。その原因の分析が行われ、その結果、一つ目の解決策として「脱朝鮮」が登場した。そして2017年以降の流行語として、「脱朝鮮」というリスクが高い解決策を補完する形で「癒し系」の代案の提起が行われた。こうした「癒し系」の流行語が心構えとして広まったことで、若者は彼・彼女らなりの問題解決策を見つけて、実行管理しているといえる。

韓国は現在、ベビーブーマー世代・386世代から、ミレニアル世代・Z世代への世代交代が行われている。その過渡期であることから、韓国社会の混乱は深刻化すると考えられ、また将来の少子高齢化、年金問題などの社会問題が可視化されているため、若者の不安はますます大きくなっている。しかし本論文で考察した流行語の変化にも現れているように、韓国の若者たちは、厳しい社会状況の中でも、自分たちなりの解決策を見つけ、社会の中で生きる術を見つけている。今後社会問題が深刻化しても、若者たちは、何らかの解決策を見つけて乗り越えていくだろう。

流行語は移り変わりの激しい言葉であり、本論文で取り扱った短い時期でさえ、大きな変化が見られた。現在、新型コロナウイルス感染拡大が韓国社会に与える

影響は、まだはっきりと見えてこない。今後の社会状況のなかで、どのような流行語が登場するのか、注視していきたい。

- 1) Specification の略語であり、学歴や留学歴など、就職活動時に書類上に記載できるもの。
- 2) ソウル特別市内に位置する大学を呼ぶ言葉、韓国ではランキングの高い大学がソウルに集中している。
- 3) 韓国のセンター試験。
- 4) おおよそ、午前6～7時に始まる高校の朝の自習時間。
- 5) 内申、面接、論述試験など。
- 6) 1981年以降生まれ、2000年以降に成人を迎えた世代（1981～1996年生まれ）。
- 7) 韓国大学ランキング1位。
- 8) 1990年代に30代、1980年代に大学生、1960年代に生まれて民主化運動を経験した世代。
- 9) 1955～1963年頃に生まれた世代。
- 10) パク・ソンウン。
- 11) The Motto.
- 12) トントんと叩く慰めの音の擬音語。
- 13) 韓国では outsider と呼ぶ。
- 14) 束縛から抜けて、自由な境界に至ること。
- 15) 正規の公教育の規定から離れた、独自の価値観を持って運営する教育機関。
- 16) 従来の blue collar, white collar から脱して、学歴と関係なく、デジタル革命時代に適応して生きる階級という意味。
- 17) 決まった働き場所を持たず、無線ネットワークを利用して移動しながら様々な場所で働く人。
- 18) 1995～2005年生まれ。
- 19) F-1 ビザ（留学生ビザ）を持つ留学生が、卒業後1年間働けるようにする制度。

引用・参考文献

[日本語文献]

小矢野哲夫、2002、「流行語に見る今の世相」、『日本語学』、21（13）：44-54.

[英語文献]

OECD, 2019, *Population with tertiary education* (Retrieved September 28, 2020, <https://data.oecd.org/eduatt/population-with-tertiary-education.htm>).

[韓国語文献] 가나다順

<論文>

김세직, 류근관, 손석준, 2015, 「학생 잠재력인가? 부모 경제력인가?」 『경제논집』, 54 (2), 355-384. (Kim Sea Jik, Ryu Kuen Kwan, and Son Seok Jun., 2015,

- “Students’ Potential? Parents’ Wealth?”, *Korean Economic Journal*, 54 (2), 355-384.)
- 문선정, 2017, 「중소기업 취업에 관한 대학생들의 신념, 태도 및 취업의도에 관한 연구」 『중소기업연구』, 39 (3), 57-76. (Sun-jung Moon, 2017, “University Student’s Beliefs, Attitudes and Intention with Regard to Applying for Jobs in SME”, *Small Business Studies*, 39 (3), 57-76.)
- 정원희, 2018, 「밀레니얼 세대분석을 통한 제주 변화의 방향」 『제주발전연구』, 22, 1-32. (Won Hee Chung, 2018, “Changes to Jeju-island from Analyzing the Millennials”, *Jeju Development Studies*, 22, 1-32.)
- 조문영, 이민영, 김수정, 우승현, 최희정, 정가영, 김주은, 2017, 『헬조선 인 앤 아웃』 놀민. (Cho Mun Young, Lee Min Young, Kim Soo Jeong, Woo Seung Hyeon, Choi Hee Jeong, Jung Ka Young, and Kim Joo Won, 2017, *Hell Chosun In And Out*, Seoul : Nulminbooks.)
- 조한혜정, 엄기호, 강정석, 나일등, 이충한, 이영룡, 최은주, 천주희, 이규호, 양기민, 2016, 『노오력의 배신』 창비. (Cho Han Hye Jeong, Eom Ki Ho, Na Il Deong, Lee Chung Han, Lee Yeong Rong, Choi Eon Joo, Cheon Joo Hee, Lee Kyu Ho, and Yang Ki Min, 2016, *The Betray of Effort*, Seoul : Changbi.)
- 허태균, 2015, 『어쩌다 한국인』, 중앙북스. (Heo Tea Kyun, 2015, *Happen to be Korean*, Seoul : Joongang Books.)
- <韓國政府関連機関資料>
- 고용노동부, 2019, 「고용센터 구인, 구직 및 취업현황」 (2020년10월19일 取得, http://www.index.go.kr/potal/main/EachDtlPageDetail.do?idx_cd=1505). (Ministry of Employment and Labor, 2019, “Employment Center Job-hunting, and Employment Status”)
- 고용노동부, 2017, 「2017년 9월 사업체노동력조사」 (Ministry of Employment and Labor, 2017, “Research of 2017 November Enterprise Labor”).
- 교육통계서비스, 2019, 「한눈에 보는 고등학교」 (https://kess.kedi.re.kr/kessTheme/webzinePop?itemCode=03&webzineSeq=41&menuId=m_02_03_04) 액세스日 : 2020년 9월 5日 (Korean Education Statics Service, 2019, “Looking at High Schools at a Glance”).
- 국립국어원, 2015, 「신어 수집 자료」 (National Institute of Korean Language, 2015, “Collection of Neologism”).
- 국립국어원, 2016, 「신어 수집 자료」 (National Institute of Korean Language, 2016, “Collection of Neologism”).
- 국립국어원, 2017, 「신어 수집 자료」 (National Institute of Korean Language, 2017, “Collection of Neologism”).
- 대한산업보건협회, 2019, 『월간산업보건2019년 8월호』 Vol. 376 (<https://kiha21.or.kr/?portfolio=2019년08월>) 액세스日 : 2020년12월26日 (Korean Industrial Health Association, 2019, August, “Monthly Industrial health”, Vol. 376, Korean Industrial Health Association [distributer].).

- 산업통상자원부, 2019, 「산업기술인력실태조사」(https://www.motie.go.kr/motie/gov3.0/gov_openinfo/sajun/bbs/bbsView.do?bbs_seq_n=162605&bbs_cd_n=81) 액세스日: 2020년12월26日 (Ministry of Trade, Industry and Energy, 2019, “Research for Industrial Technology Labor Force”).
- 인구주택총조사, 2019, 「인구주택총조사 조사결과」(<https://sgis.kostat.go.kr/view/totSurv/populationDashLoc>) 액세스日: 2020년12월26日 (Population and Housing Census, 2019, “Population and Housing Census Result”).
- 중앙자살예방센터, 2018, 『2018 자살예방백서』(<https://spckorea-stat.or.kr/boardpublishlist.do>) 액세스日: 2019년12월29日 (Korean Suicide Prevention Center, 2018, “2018 Suicide Prevention White Paper”, Korean Suicide Prevention Center [distributor].).
- 한국경영자총협회, 2016, 「2016년 신입사원 채용 실태 조사」(http://www.kefplaza.com/kef/kef_press_view.jsp?num=5023). 액세스日: 2020년12월26日 (Korea Enterprises Federation, 2016, “2016 New Employee Status”).
- 한국산업인력공단, 2020, 「해외취직통계정보」(<https://www.data.go.kr/data/3045136/fileData.do>) 액세스日: 2020년12월26日 (Human Resources Development Service of Korea, 2020, “Overseas employment statistics”).
- <放送>
- 이동협 (演出), 2016, 『수저와 사다리』, SBS (Lee Dong Hyub (Producer), 2016, “Spoon and Ladder”, SBS).
- <인터넷자료>
- 교보문고, 2011, 「교보문고 2011년 베스트셀러 분석_ 독자들에게 사랑받은 책」(http://news.kyobobook.co.kr/it_life/specialView.ink?sntn_id=4478) 액세스日: 2019년12월30日 (Kyobo Books, 2011, “2011 Bestseller Analysis_The books loved by readers”).
- 교보문고, 2018, 「2018, 올해의 책」(http://www.kyobobook.co.kr/prom/2018/book/181129_book2018_best.jsp) 액세스日: 2019년12월30日 (Kyobo Books, 2018, “2018 Bestseller Trend of the Year”).
- 사람인, 2016, 「취업난과 경제적 어려움 등으로 포기한 것이 있는지 여부」(http://www.saramin.co.kr/zf_user/help/live/view?idx=36609&listType=news) 액세스日: 2020년11월 8日 (Saramin, 2016, “Whether you have ever given up something due to Unemployment/Economical Concerns”).
- 사람인, 2019, 「퇴사율 현황」(http://www.saramin.co.kr/zf_user/help/live/view?idx=99580&listType=news) 액세스日: 2020년11월 8日 (Saramin, 2019, “Retirement Status”).
- 알바천국, 2017, 「문재인 정부에서 더 이상 유행하지 않았으면 하는 자조어」(<https://www.alba.co.kr/story/brand/MediaReportView.asp?idx=3164&page=28>) 액세스日: 2020년11월 8日 (Alba Heaven, 2017, “Sarcastic Words you do not want to see any more in the Moon Jae-in Government”).

- 알바천국, 2015, 「청년층이 꼽은 ‘2015 신조어’ BEST 7」 (<https://www.alba.co.kr/story/brand/MediaReportView.asp?idx=2984&page=39>) 액세스日: 2020年 9月 20日 (Alba Heaven, 2015, “BEST 7 ‘Slangs for 2015’ Adolescents picked”).
- 엠브레인, 2017, 「2017 YOLO (올로) 라이프 관련 인식 조사」 (<https://www.trendmonitor.co.kr/tmweb/trend/allTrend/detail.do?bIdx=1601&code=0404&trendType=CKOREA>) 액세스日: 2020年11月 8日 (EMBRAIN, 2017, “2017 How do you think about YOLO Life”).
- 인크루트, 2018, 「2018 유행어 설문조사」 (<http://people.incruit.com/news/newsview.asp?newsno=4437571>) 액세스日: 2020年11月 8日 (Incruit, 2018, “Buzzword for 2018”).
- 인크루트, 2017, 「2017 유행어 설문조사」 (<https://people.incruit.com/news/newsview.asp?newsno=3914447>) 액세스日: 2020年11月 8日 (Incruit, 2017, “Buzzwords for 2017”).
- 잡코리아, 2020, 「좋은 직장의 조건」 (https://www.jobkorea.co.kr/goodjob/tip/view?News_No=16368&schCtgr=120003&Page=1&Tip_Top=1) 액세스日: 2020年12月 5日 (JobKorea, 2020, “Conditions for a Good Workplace”).
- 잡코리아, 2018, 「워라밸 정도」 (http://www.jobkorea.co.kr/GoodJob/Tip/View?News_No=14073&schCtgr=0&schTxt=워라밸&Page=2) 액세스日: 2020年12月 5日 (JobKorea, 2018, “How good is your Work and Life-balance”).
- 잡코리아 · 알바몬, 2017, 「‘올로족’ 설문조사」 (http://www.jobkorea.co.kr/goodjob/tip/View?News_No=12557) 액세스日: 2020年11月 8日 (JobKorea · Albamon, 2017, “Are you ‘YOLO?’”).
- 중앙일보 · 블라인드, 2019, 「직장인에게 물었다, 행복하십니까요?」 (<https://news.joins.com/article/23570900>) 액세스日: 2020年12月12日 (Joongangilbo · Blind, 2019, “We Asked the Employees, are you Happy?”).
- NEWS1, 2015, 청년 新계급론… 헬조선에선 아무리 노오력해도 흠수저” (<https://www.news1.kr/articles/?2458053>) 액세스日: 2019年11月 8日 (NEWS1, 2015, “New Hierarchy for Youth… 「No matter how hard you work, you are always Poor in Hell-Chosun”).